

【六月の言葉（令和四年）】

「こだわり」は

「さまたげ」にもなる

普段の生活で「こだわり」は、肯定的な意味で用いられる場合の多い言葉です。「こだわりの店」「こだわりの逸品逸品」「こだわりの製法」など、一つの物事を徹底して極める気概を感じさせますが、辞書には「さまたげる」「邪魔する」といった否定的な意味でも解説されています。

何の根拠もない迷信が気になったり、他人の何気ない言葉に惑わされたりしてしまうのが人間ですが、どうでもいいことにこだわると大切なものを見失い、右往左往しながら窮屈な方向へと押し流されてしまいます。

災難や不幸の原因を数字・方角・日柄などのせいにして、間違った方向に答えを探しているとしたら、出口のない迷路に足を踏み入れたも同然です。『広辞苑』で「迷信」を引くと「宗教的・科学的立場から見て、めいごまう迷妄と考えられる信仰。また、道理に合わない言い伝えなどを頑固に信ずること。……」と出ています。心の迷妄状態です。迷信は心に茂った雑草です。雑草だらけの畑には美しい花が咲かないように、迷信にこだわる人生に多くの実りは期待できません。

